

登録コード:MH425200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	日常生活支援論【20MJ以降】 Activities of Daily Living		
担当教員	岩波 潤 務臺 均		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/ 2 年 前期 火曜・3 時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科診断訓練実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	作業療法士として必要な感性を磨き、日常生活を支援するために必要な知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	保健・医療・福祉の現場において、作業療法士として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	作業療法士に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能（ADLの歴史、ADLの評価、各ADLへの支援原則や技術）を修得し、さまざまな状況で活用できる。 社会で派生する多様な課題に対して、日常生活動作に関わる作業療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、それらを支援するための制度や知識の獲得に向けて生涯をかけて取り組む力を身に付けることができる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	作業療法に関わるADLの概念、作業療法実践に向けた評価手技やアプローチ法について詳細に学ぶ。作業療法における治療実践に結びつける問題・課題・残存機能の評価とその分析から、作業療法での生活支援方策について討論する。 本科目は、1年次に学んだ「リハビリテーション概論」「作業療法概論」の知識を前提とし学んでいくことになる。そして本科目の内容は、3年次に学ぶ「日常生活支援論演習」、「地域作業療法学実習」ならびに4年次の総合臨床実習における重要な基礎知識となる。 本授業は、担当教員の医療機関における作業療法士としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第 1回（4月14日）：日常生活活動の概念・意義・範囲、歴史的変遷 第 2回（4月21日）：国際生活機能分類 第 3回（4月28日）：日常生活動作の評価 第 4回（5月12日）：起居動作 第 5回（5月19日）：移動動作 第 6回（5月26日）：食事動作 第 7回（6月 2日）：整容動作 第 8回（6月 9日）：更衣動作 第 9回（6月16日）：入浴動作 第10回（6月23日）：排泄動作 第11回（6月30日）：日常生活関連動作 小テスト 第12回（7月 7日）：生活行為向上マネージメント（MTDLP）について 第13回（7月14日）：片麻痺患者に対するADL支援について 第14回（7月21日）：脊椎損傷患者に対するADL支援について 第15回（7月28日）：障害体験（実技・レポート課題）、授業アンケートの実施 第16回（8月 4日）：筆記試験		
授業の進め方	本授業は、教科書とパワーポイントのスライド・配布資料に基づいて進めていきますが、能動学習による理解の深化を目指すため、質疑応答にも重きを置いて展開します。とくに大切な点は、予習（事前学習）・復習（事後学習）を通して能動的に学んだ内容を、論理的・言語的に分かりやすく他者に伝えるという行為を反復することによって、日常生活支援に関する知識や技術についての理解を深めるという点です。そのため、授業の最初には、前回の授業内容の事後学習の成果について質問を行います。また、授業の中では、自身が興味をもって能動的に学んだ事前学習の生活についての質問を行います。これらの質疑応答の反復を通して、行動目標に達成することができるよう意欲的に能動学習に取り組んでください。また、授業の最中でも、不明な点があれば、積極的に質問することによって、自身の疑問を解決するように努めてください。各回で実施する実技は二人一組で行います。		
テキスト、教材、参考書	教科書 ・伊藤利之（編）：新版 日常生活活動学（ADL） 評価の支援の実際 第2版 医歯薬出版 2020		
成績評価の方法	・期末試験、小テスト、レポート課題の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。 ・総合的評価の配分は、期末試験60%、小テスト20%、レポート課題20%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。		

成績評価の方法	・小テストは、予習もしくは復習による学修到達度を確認するために、第11回(6月30日)に筆記試験として実施します。 ・期末試験は第16回(8月4日)に、筆記試験として実施します。 ・レポート課題は毎回の授業後にe-ALPSに掲載される事後課題および第15回目の障害体験に関する内容です。 ・期末試験・小テストでは、日常生活動作の評価手法やADL概念の歴史的背景、生活に視点を置いた作業療法プログラム策定等についての理解度を確認します。 ・本科目の「学位授与の方針」への寄与度は、総合的評価の2/3を《基礎的・専門的な知識と技能》に、総合的評価の1/3を《科学的探求力》とする。
成績評価の基準	レポート課題・小テストおよび期末試験による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 なお、これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業の終わりに、次回までに学習すべき内容について説明を行います。 【事後学習について】 授業内容に関するレポート課題を毎回提示しますので、実施してください。レポートでは、自分の言葉で端的に解りやすく説明するように意識してください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間(2時間×15回) + 自己学習時間15時間(1時間×15回) = 45時間 ※以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	日常生活活動の支援は、作業療法の中心的課題です。既習または並行して学習する医学系科目の知見をどのように反映して、日常生活活動をみるかをしっかり学んでください。 質問・相談は教員が在室の場合は、随時受け付けます。またEメールでの質問やアポイントの連絡も随時受け付けます。 質問への対応：岩波潤 iwanami@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時(要事前連絡) 保健学科南校舎2階 岩波潤研究室